

(令和3年8月開催) 福島県環境審議会第2部会における猪苗代湖及び裏磐梯湖沼水環境保全推進計画の改定に対する意見と対応

No.	資料	該当頁	意見等	意見等への対応	委員	担当課
1	資料2		<p>目標値を下げるというメッセージに伝わってしまうことが問題だと思います。改善どころか悪い方向に向かっている状況の中で検討されたと思います。今の状況を考慮せずに現状維持とすれば、それは目標と言うより理想になると思います。</p> <p>目標は下げても、きちんと体制は強化する、対策を実施する、といった内容を合わせて強調しなければ、ただ目標値を下げるということだけが伝わると思います。</p>	ご意見を踏まえ、丁寧に説明してまいります。	中野委員	水・大気環境課
2	資料2		水草の炭素固定に関する考えを提案しました。水草を悪者とみる見方もありますが、回収した水草量を炭素固定量に換算して炭素を固定したと評価することができると思います。	水草回収によりどの程度の二酸化炭素が吸収されるのか等について、今後、どのように取組へ反映できるか、引き続き検討してまいります。	中野委員	水・大気環境課
3	資料2		水草の回収については、かなりボランティアに頼っている部分が多いと思います。コロナウイルスの影響でボランティア活動が出来ないことで水草の回収が出来ないということが明らかになりました。ボランティア活動は素晴らしいことで、私もボランティアに参加していますが、水草全てを取り切れていない現状があります。水草を回収することで水質の改善や炭素固定化が出来るので、機械化できないか、対策を検討してほしいです。	<p>水草回収について、県では刈取船を使用し、年間10日程度回収しており、昨年度は93トン程度のヒシを回収しました。今年度も刈取船による水草回収を実施しました。</p> <p>また、今年度、県で刈取船を整備し、来年度から年間50～60日間、水草の回収を行い、回収量を増加させることとしています。</p>	中野委員	水・大気環境課

No.	資料	該当頁	意見等	意見等への対応	委員	担当課
4	資料2		<p>CODについて検討して頂きたい点があります。それは、具体的に例えば回収船の導入など、さまざまな工夫をされ、CODの負荷量の計算もされているので、かなり具体的な値だと思います。</p> <p>一方で、私は「1.0mg/L以下」を達成することもかなり難しいと思います。</p> <p>目標値について、湖心と湖岸部でそれぞれ「0.5mg/L」下げただけではないのでしょうか。もしも、裏付けがあまりなくこのような改正を行うのであれば、これまでどおり、湖心「0.5mg/L以下」、湖岸部「1.0mg/L以下」という目標を掲げながら、それに向かって、最大限努力していくという方策もあるのではないかと思います。</p> <p>ただし、具体的な施策に基づき、対策することで湖心での目標値「1.0mg/L以下」が達成できるのであれば、よい数値であると思います。</p> <p>その部分の判断ができなかったので、事務局の考えを教えてください。</p>	<p>猪苗代湖湖心のCODを「0.5mg/L以下」から「1.0mg/L以下」に変更する点について、pHが酸性だった時期には自然浄化作用などが働いており、そのことでCOD「0.5mg/L以下」が達成出来ていました。</p> <p>現状においては、pHが中性化し、自然浄化作用などが低下しております。</p> <p>その中で、最大限に水生植物の刈り取りをすることや湖に流入する人為的な汚濁負荷の削減していくことなどにより、達成可能な数値として「1.0mg/L以下」としました。</p>	渡邊委員	水・大気環境課
5	資料2		<p>猪苗代湖に流入する窒素・リンの量について、pHが変化する前後で変わっていないのかを教えてください。窒素・リンの量が増えていて、かつ、pHが上昇しているのであれば、pHが中性化しても、窒素・リンの排出を抑制することで目標値を達成することができると思います。</p> <p>しかし、窒素・リンの量があまり変わらず流入している場合、pHが酸性だった時にはその恩恵により水生生物の繁殖が抑えられ、結果として、CODが低く抑えられていたのではないかと思います。</p> <p>窒素・リンの流入量とpH、CODとの因果関係がわかるのであれば、説明してください。</p>	<p>窒素・リンの流入量ですが、平成元年度から負荷の総量自体はそれほど変わりはありません。</p> <p>また、猪苗代湖の水質では、窒素については低下傾向で、リンについては0.003mg/L前後と低い状態です。</p> <p>pHが酸性だった時代には自然浄化作用などが働いており、そのことでCOD「0.5mg/L以下」が達成出来ていました。</p> <p>現状においては、pHが中性化し、自然浄化作用などが低下しております。</p> <p>その中で、最大限に水生植物の刈り取りをすることや湖に流入する人為的な汚濁負荷の削減していくことなどにより、達成可能な数値として「1.0mg/L以下」としました。</p>	武石委員	水・大気環境課

No.	資料	該当頁	意見等	意見等への対応	委員	担当課
6	資料2		<p>目標については下げたということになりますが、書類を確認したところ、現実感を持って本格的に取り組むという姿勢が見られたため、対策を強化するという覚悟と受け止めて、私は提案に賛成しました。水生植物への対策や人為的な汚濁負荷への対応などをしっかりと取り組んでほしいと思います。特に人為的な汚濁負荷への対策、例えば、浄化槽の問題などにしっかり取り組んでいただく事が水質改善に繋がると思います。是非、取り組んでいただき、成果をあげてほしいと思います。</p>	<p>浄化槽の適正な維持管理や家庭でできる生活排水対策の取組、窒素・燐除去型浄化槽への転換や下水道等への接続等について、広く流域住民に普及啓発するため、パンフレットの作成配布や講習会等を実施してまいります。</p>	崎田委員	水・大気環境課
7	資料2		<p>目標を現実に沿ったものにするに對して、反対はしませんが、どのように受けてもらうかについて、受け手による違った解釈が発生すると思います。</p> <p>提案として、当面の目標を「1.0mg/L以下」とするとして、数値で示すことは難しいかもしれませんが、長期目標についても併せて示すことはできないでしょうか。</p> <p>あと、目標がなかなか達成できない状況について、県側の危機感のようなものをもっと明確に示してほしいです。(窒素・リン)の流入量が変わっていないにもかかわらず、CODが改善しないのは、自然の浄化機能が落ちているということなど、原因究明中のものもあると思いますが、今のまま何もしなければ、より悪化していくという危機感を明確に示して、その上で説明をしてはいかがでしょうか。</p> <p>もう一点、猪苗代湖は福島県の象徴的な存在であり、どうしても猪苗代湖に近い地域に寄って物事を考えがちではありますが、私は浜通りの出身であり、住んでいる地域が異なると、例えば、会津や中通りの方が感じている危機感とは違う感覚があります。浜通りの人間からすると猪苗代湖は少し遠い存在でありますけれども、そのような方たちにも届くようなメッセージを示してほしいと思います。</p> <p>さらに、ボランティアの話も出ていましたけれども、これから特に周辺エリアの人口が減少しており、観光も衰退気味です。その状況でこれからどのように地域を保全し、解決しているかが課題だと思います。そのあたりを含めて危機感を示してほしいと思います。</p>	<p>ご意見を踏まえ、丁寧に説明してまいります。</p>	小野委員	水・大気環境課